

授業科目名： 肢体不自由児・者の 心理・生理・病理	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 徳永 亜希雄
			担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)	養護学校（現：特別支援学校）元教員		
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児・児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目		
「学位授与の方針」との関係 本科目では，本学の3つの約束「人を認める，人を排除しない，仲間を作る」に資する基本的な知識の理解と態度の育成を図ることを目指す。			
授業の到達目標及びテーマ 本授業では，肢体不自由のある幼児児童生徒に関する心理・生理・病理に関する内容を概観し，教育的かかわりのために必要な基本的な知識の理解と態度の育成を図ることを目標とする。最終的には，肢体不自由のある幼児児童生徒に関する心理・生理・病理に関する内容を理解し，自らの言葉で説明できるようになった上で，肢体不自由教育実践を観察する際に，子どもの実態や教職員によるかかわりの意図を理解できるようになることを目指す。			
授業の概要 肢体不自由のある幼児児童生徒の教育実践のためには，肢体不自由児・者の心理・生理・病理の特性について理解しておく必要がある。そのために本授業では，まず医学的な観点や学校教育の観点から肢体不自由の定義について学修する。次に，運動機能や神経系，骨・筋の仕組み，運動機能の発達について学修する。続いて，肢体不自由の主な原因疾患の特徴と配慮事項として，いくつかの疾患を取り上げながら学修する。最後に，それらの理解の上で，肢体不自由児・者の心理についていくつかの観点から学修を深めていく。			
授業計画 第1回：肢体不自由とは①—医学的な観点からの理解— 第2回：肢体不自由とは②—学校教育の観点からの理解— 第3回：肢体不自由児・者の生理・病理①—運動機能と神経系の仕組み— 第4回：肢体不自由児・者の生理・病理②—骨・筋の仕組みと運動機能の発達— 第5回：肢体不自由の主な原因疾患の特徴と配慮事項①—脳原性の疾患— 第6回：肢体不自由の主な原因疾患の特徴と配慮事項②—筋原性の疾患— 第7回：肢体不自由の主な原因疾患の特徴と配慮事項③—脊椎脊髄性の疾患— 第8回：肢体不自由の主な原因疾患の特徴と配慮事項④—骨系統の疾患— 第9回：肢体不自由児・者の心理①—発達の全体的理解— 第10回：肢体不自由児・者の心理②—認知・思考の発達— 第11回：肢体不自由児・者の心理③—肢体不自由が発達に与える影響— 第12回：肢体不自由児・者の心理④—知覚及び知能の特性— 第13回：肢体不自由児・者の心理⑤—行動特性とパーソナリティ— 第14回：肢体不自由児・者の心理⑥—障害受容と肢体不自由児・者への態度— 第15回：肢体不自由児・者の心理・生理・病理に関する総合的理解			

定期試験

教科書

- (1) 杉野学・長沼俊夫・徳永亜希雄 編著 『特別支援教育の基礎』 大学図書出版 2018 年  
ISBN コード 9784907166892
- (2) 川間健之介・長沼俊夫 編著, 『新訂 肢体不自由児の教育』 放送大学教育振興会  
2020 年 ISBN コード 9784595321719

参考文献

- (1) 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 及び解説 最新版
- (2) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』, 2021 年

学生に対する評価

レポート評価 (50%), 科目修得試験 (50%) の割合で総合して評価する.